

実践研究大会 2024 開催にあたって

公益社団法人東京社会福祉士会

会長 岡野 範子

この度、コロナ禍と日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会東京大会で中断されてきた第5回実践研究大会を開催することになりました。

本大会の企画・立案の全ては、公募に応じて参集した実行委員の皆様の度重なる論議によって策定されました。そして、その実行委員と公募に応じたボランティアの皆様により大会当日の運営が行われようとしています。

東京社会福祉士会は、本年度の事業計画で、次の3点を重点課題と決定しました。第1は「倫理綱領の周知」 第2は「組織率の向上」 第3は「職能団体として担うべきメゾ・マクロの取り組みの推進」です。

大会午前のシンポジウムのテーマは、実行委員の熱心な論議の末「次世代を担う君へ～社会福祉士ってすごい～魅力ある仕事・活動」となりました。これは、期せずして本年度の第2の重点課題「組織率の向上」に答えようとしたものとなりました。

大会午後の各分科会で行われる実践研究発表、ポスター展示、説明会も、第1及び第3の重点課題に答えることが期待されます。また、シンポジウムの隣の会場では、Tokyo Social workers Fest.が午後から開催されます。これは共催団体である文京社会福祉士会の企画によるもので、来場者相互の交流を目指した名刺ラリー、地域の人々にも開かれたゲームとワークショップ、物販や飲食などさまざまな新機軸の催しで第2の重点課題に答えようとしています。

本大会が盛況裡に開催されることが、本年度の重点課題の達成につながることであり、同時に、できるだけ多くの参加の下に、会員一人ひとりが、楽しく学び、それが社会福祉士としての明日への活動の糧となることを願っています。

実践研究大会 2024 開催にあたって

文京社会福祉士会

会長 武長 信亮

私たち、文京社会福祉士会（通称「BSA」）は、
“つながればもっと力になれるはず” を合言葉に、
“いつでも声が届く距離にいる専門職でありたい” との理念のもと、
「まち」の人たちとの関係性という視点から、地域における福祉専門職のあり方・ネットワークのあり方について、多様なメンバーと共に思索し、それに基づく活動を実践しております。

この度、『実践研究大会 2024』が文京区を会場に開催されることとなり、BSA としては、会員一同、上記理念の実現に向けた活動の場をいただいたものと捉え、共催団体として関与することになりました。

BSA は、主として『Tokyo Social workers Fest.』の企画・運営に携わらせていただいております。若手の社会福祉士を中心に、メンバー皆でアイデアを出し合い、地域福祉を身近に感じられるようなコンテンツを用意しております。ご参加の皆様におかれましては、是非お楽しみいただければ幸いです。

最後になりますが、本大会への出演・発表等、様々な企画にご協力をいただいた各団体の皆様、多忙のなか本大会の開催のために何度も打ち合わせを重ねてこられた実行委員会スタッフの皆様、そして何より、貴重な祝日のお休みにもかかわらず本大会にご参加いただく「まち」の皆様に深く御礼を申し上げます。

本大会が、専門職同士のみならず、「まち」の皆様と私たち社会福祉士との有意義な接点となり、ひいては新たなネットワーク構築のための一助となりますよう、心より願っております。